

こだわりスポット NATURAL

このコーナーは「NATURAL」と題して、自然を愛し、自然にこだわり、そして自然体で活躍されている人々を紹介していきます。

レストラン 山燈花(さんとうか)

金剛山の麓、千早の山奥に「レストラン 山燈花」があります。地図をみながら、レストランを目指したものの、「本当にこの道でいいの?」と不安になるような細い山道をドキドキしながら車で登っていくと、すっと目の前が開け、昔ながらの落ち着いた佇まいと、美しい花々に囲まれた風景が広がってきました。

もともと、当主の井関さんは先祖代々この地で暮らされ、先代当主が趣味で杉松林にシクナゲを植栽されたのが始まりで、40年あまりかけて育てたこの景観を、多くの方々に見ていただくこと、そして、地場で採れた食材を提供したいという思いでレストランを開設されました。



そこは、タイムスリップしたような感覚になるほどの桃源郷のような世界。当主によって長年守られてきた山、季節の花々、木漏れ日、静寂の中に響く自然の音色、風の匂い、全てが優しく五感に染み入るような空間の中、部屋一面の大きなガラス窓が印象的なレストランで、山で採れた山菜や金剛山の清らかな水で育った「ニジマス」などを、窓から広がる景観を楽しみながら頂く…。

これこそ、最高の食事なのだと思える気分になります。ほんの少し車を走らせるだけで、こんな風景に出会えるなんて幸せです。いつまでも大切に守っていきたくて心から思える…そんな場所です。



レストラン 山燈花(さんとうか)

- 〒585-0052
- 住所：大阪府南河内郡千早赤阪村中津原381
- 電話：0721-72-1814
- HP：http://santouka.jp/

◎お食事をご希望のお客様は予約が必要なので、事前にご連絡をお願いします。
◎但し、冬季は休業されていますのでご注意ください。

このコーナーは、美原区にお住まいの方及び美原区内にお勤めの方々を対象に、実施されているイベントなどをご案内するものです。

みはらトピックス

第17回あそびいちば開催!

みはら大地幼稚園保護者OBと地域ボランティアの方々が中心となって開催されている「あそびいちば」は本年度も5月9日(土)に開催されます。

今回のテーマは「地球にやさしい」で、エコや環境問題を意識した会場づくりや模擬店を予定しております。どなたでも参加できますのでお気軽にのぞいてください。

入場無料 雨天決行

日程：平成21年5月9日(土) 午前10時～午後2時(予定)

場所：みはら大地幼稚園内(美原区菅生587)

主催：あそびいちば実行委員会

問合せ：みはら大地幼稚園(電話361-8772)

※会場への車の乗り入れはできませんのでご注意ください。



SPACE DESIGNER
空間を創造する者たち

高松伸
～その造形が訴えるもの～
植田正治写真美術館

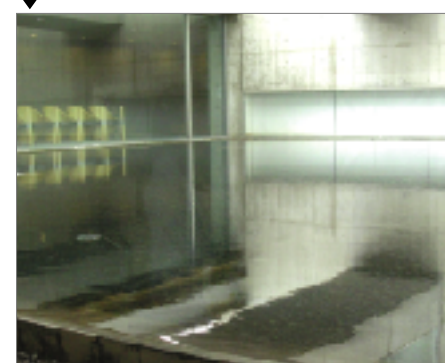


〒689-4107 鳥取県西伯郡伯耆町須村353-3 TEL:0859-39-8000
http://www.japro.com/ueda/



▲建物の内部です。エントランスから2階に上がる階段部分です。内部はすべてコンクリートの打ち放しになっており、コンクリートの壁と、大面積の窓ガラスで構成されています。

箱と箱の間にある池の水は、建物内部から見ると風景を鏡のように映し出し、大自然の広がりを感じさせます。建物に水を使う設計はよくありますが、ここは非常に効果的なものになっています。



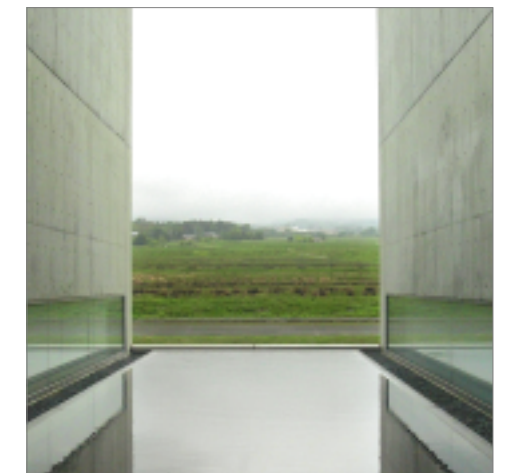
植田正治氏は世界的に著名な写真家です。フランスでも「Ueda-cho」(植田調)という言葉で紹介される、被写体をオブジェのように配置した演出写真が特に有名です。

生地である境港で活動し、山陰の空や地平線、それに鳥取砂丘を背景に斬新な写真を2000年7月に亡くなるまで撮り続けた写真家です。

その植田正治氏の作品を常設展示することを目的に建てられたのが、この植田正治写真美術館です。

高松伸氏の設計ではきわめてシンプルなデザインの建物は、幅の異なる4つの大きなコンクリートの箱と緩やかな曲線を描く146mにも及ぶ独立壁で構成されています。

この建物の特徴は、そのロケーションを最大限活かしていることです。建物の目の前には伯耆富士と呼ばれる大山が対峙するように存在し、箱の間から見える風景は、まるでファインダーを覗いているようです。また一番左の箱には穴が開いていて、世界最大級のレンズが設置されており、その建物自体がカメラの内部の機能を持っています。そしてレンズの反対の内部の壁には、逆さ大山が映し出されるようになっています。



▲建物の間から見える風景です。天気がよければ正面に大山がはっきり見えるのですが…

建物の壁面により切り取られた風景は、ファインダーを覗いているような、あるいは絵画を見ているような感覚を覚えます。建物の中にある人工の池は風景を映し、逆さ大山を見ることができるとのことです。シンプルな建物と、壮大な風景がそこにうまく演出されており、植田正治写真美術館にふさわしい設計だと感じます。



▲左端の建物に小さな(実は小さくない)穴が開いています。ここに直径600ミリの巨大レンズが設置されていて、その建物の箱自体がカメラと同じ構造になっています。レンズをとおして内部の壁面に正面にある大山がくっきりと、写真と同じように上下左右さかさまで映し出されます。建物の内部は映像で植田正治氏や彼の作品の説明の紹介がされており、その最後に、シャッターを切るようにレンズが開けられ、映像が壁面に浮かび上がるようになっています。

